

同局員 八木 篤
京城藥報の發刊を祝し併而永遠の發達を

祈る
祝發刊
春錦堂 猪飼史郎
兵庫縣技師 葉若雄次
春雜吟 著 田

祝日の村出て村へ春の旅
京の水ちよろゝ温み流れけり
城跡に大重べの紙簾
藥草を摘みて堤を下りけり
報言の谷に昔なく峰を入
發田の笹を浸して水口祭
行く春を八洲の女の宮詣で

寸鐵錄
ミドリ生

ハ政府は藥劑士を視るに 醫術の處方箋
に依りて調劑す可きものと定義せり、
藥劑士なるものは單に處方箋に依りて調
劑云々なるものが職務なるや、將又藥劑
士によりて調劑す可きものなるや其間の
解釋極めて難なり
ハ若しも前者によりて解釋せんか、藥劑
士は必然調劑のみの天職也即ち絶対のも
のなり、後者は藥學萬能の職務を執り、
而して處方箋上の調劑は藥劑士のみが取
扱ふ也と義務的のものなり、何れがホン
トウなるや
ハ丁未以來藥學博士の符は此所の山、彼
方の谷間にニヨキと芽を出せり、目
出度き哉新博士、此の芽が榮進に發生す
ればこそマダシモ天を衝く而已なり、若
し斜めに萌芽すれば互に角突き合は免か

亦大なり。

韓 國 貿易論

古賀 筑水

抑も我國は我々同文同種の一國、加之一草一木を隔つるに過ぎず、故に往古彼我の修好は千有餘年即ち三韓以來韓半島歴史の一半は殆んど我帝國との關係より成るにあらざるものなし、韓半島の運命は直に我帝國の運命也半島は必ずや我邦人の處置せざるべからざるなり

今や吾人は經營問題に推移せり經世家は幾多の經營問題を持し着々實行しつゝあるなり、或は實業家は經濟上の見地より

一貿易事情の著者佐藤氏は、國を富ますの道は如何産業を開發して國本を培養する是れのみ産業大に興るの曉は如何遠く販路を世界に求めて列國と生存競争場裡に相見永く優者の地位に居らん事を期する即ち是れのみ吾人は世界貿易の大勢を觀して本邦の現狀に至る毎に未だ此處を切にせずんばあらざるなりと

韓國貿易は今や一年増進し外國貿易額(明治四十年末)五千萬圓以上に達し就中日貿易は二千八百萬圓に達し、就韓貿易の獨占する所にして地の利を占むる斯の如くにして遂に能く爲す所なくんば是れ邦人空しく天に背き何れの日か能く太平洋上の新主人公たるべきか

最近十年間韓國外國貿易總額

年次	輸入	輸出	合計
明治二十年	八〇八、三三三	二四八、八八八	一、〇五七、二二二
明治二十一年	六五三、三三四	四七六、七〇〇	一、一三〇、〇四四
明治二十二年	一、〇七五、五五五	八九三、八五五	一、九六九、四一〇
明治二十三年	一、二八七、五五二	五七九、四八九	一、八六七、〇四一
明治二十四年	一、〇三六、三六六	四九七、八四五	一、五三四、二一一
明治二十五年	一、〇九〇、四六〇	四九三、八六七	一、五八四、三二七
明治二十六年	一、四六六、四七〇	八四六、九八九	二、三一三、四六九
明治二十七年	一、三三〇、四四九	八三七、〇七〇	二、二〇七、五一九
明治二十八年	一、二九二、一三三	九四七、六三三	二、二三九、七六六
明治二十九年	一、八〇五、五八〇	六九三、五〇四	二、四九九、〇八四
明治三十年	二、六八五、三六〇	三、七六八、八八〇	六、四五四、二四〇

對する割合表

年次	輸入	輸出	合計
明治二十年	八〇八、三三三	二四八、八八八	一、〇五七、二二二
明治二十一年	六五三、三三四	四七六、七〇〇	一、一三〇、〇四四
明治二十二年	一、〇七五、五五五	八九三、八五五	一、九六九、四一〇
明治二十三年	一、二八七、五五二	五七九、四八九	一、八六七、〇四一
明治二十四年	一、〇三六、三六六	四九七、八四五	一、五三四、二一一
明治二十五年	一、〇九〇、四六〇	四九三、八六七	一、五八四、三二七
明治二十六年	一、四六六、四七〇	八四六、九八九	二、三一三、四六九
明治二十七年	一、三三〇、四四九	八三七、〇七〇	二、二〇七、五一九
明治二十八年	一、二九二、一三三	九四七、六三三	二、二三九、七六六
明治二十九年	一、八〇五、五八〇	六九三、五〇四	二、四九九、〇八四
明治三十年	二、六八五、三六〇	三、七六八、八八〇	六、四五四、二四〇

何如なる程度に發達しつゝ如何に實行せらるやを討究せんには順序として左の數項を設けて説くを勸むなりとす

- (一) 韓國に於ける衛生の狀態
- (二) 藥品需用の狀況
- (三) 韓國醫學教育の程度
- (四) 韓國醫師藥劑師の増加
- (五) 本邦人移住者の増加
- (六) 藥品の三大需用地
- (七) 韓國産の藥品
- (八) 藥品製造工業の狀況
- (九) 最近輸出輸入藥品の統計

(未完)

粉未、藥は何故に日本藥局方品として官衛會社及び箇人は封緘を貼用なすか

三木 碧 冷

予等日本藥局方を通覽するに未だ粉未藥(生藥)の明文有るを觀ず

然るに市場に於て日本藥局方日本藥局方品として取扱ひ又官衛會社及箇人之が局方通品たるの證明封緘を施し居れり抑も藥局方品なる名稱は藥局方法文以外の出でたるものにして、此局方法文以外の品は其何たるを本論、毫も局方品なる名稱を利用する能はざるの事は予等が多言を承する迄もなく、其の條理、至言なるは識者の風を知る所なり

然れば官衛會社及箇人が該粉未藥を以てするに局方云々の封緘を貼用せるは抑も何の封緘とし、標準とせる乎哉又當局者が公然之れを默認せざるは亦何なる故なる乎

吾人其の理由を尋解するに苦しむなり、故に敢て識者の高示を仰ぎ以て當局者の反省を促す謂ひなり、(二月十日投稿)

大阪より

拜啓者御覽刊の運びに至り候由敬賀至

極至極に存候貴地は大阪藥業界と縁故最も深く其盛衰は大阪藥界と大關係を有する可く從て機關紙も一二拜讀仕候得共、れもこれも山里育ちにて何故根底の確固たる機關紙出てざるやと怪み申居候結果して貴紙の御發刊を承り是れ即ち大阪藥業界が東京に於ける大發展を表明したるものと欣慕の情應へ難く喜び申候而して貴紙が東京の唯一理想的藥業新聞たる事は斷じて疑わざる處に御座候斯界の爲め忠實に大々的御成功を奉願候

當地藥業界は「いつこも同じ秋の夕暮」今は樂しき平和の夢に耽り申居候裏面には多少の暗潮はあらんも個々に涉り八釜數分業の聲も一陣の熱風と化し碧空を横きり申候官封止とか藥劑の精神とか枝葉の繁榮然し官封止は稍々問題が大さく炎の手は昂りどうやら物になりそうに御座候それに付けても昨春の活動は一場の夢かと想像せられ其疲勞が反動的に今春の静寂と合致致候藥律改正案、昨春の活動が勢を盡して未だ腹理、忘れされず志士は來る可き分業案の活動を待ち焦がれ居候

機關紙は藥業、藥名が東西の重鎮として認められ申居候然かし振はざる事久しく皆々廣告にかふれたるに非ずやと思ひ候又果して藥界文士の拂底なるか兎に角好現象に無之候近來道修藥報とか申す機關紙が現われて候金満家の資本主より成立したるもの、由にて寧ろ同臭藥報と改名する方が適當かと臆測致され候序に小新聞なれど藥劑新聞とか稱する機關紙が内容に稍々振ひ申居候此新聞は半第半文學のぬらり新聞に御座候

其他に深山有之候も皆雨後の筍同様傍生物に御座候兎に角昨年は藥業新聞の大豐年なる事は疑なく信じ申候先是新聞消息迄他は後便に譲り申候頓首 (町の人)

京龍藥業界ノ現況 筑水生

現時の京龍藥業界は如何なる曙光を放ちつゝ活動せるかこれ母國同業者の知らんとする所吾人も亦これを母國同業者に告げんば欲するや茲に年ありしも未だ好機關なきを憾みしに藥報發刊あり以て鷄林八道の同業界の狀況を報せん

日下京龍に藥劑師二十三名あり開業者六名藥種商に雇聘せらるもの二名(他は官公立病院官衛に奉職)藥種商二十有餘にして殆んど三十八九年より四十年に開設せるものにて藥劑師の開業は三十九年六月に河又隆太郎氏の開業せるを第一着とし田淵芳太郎氏は同年龍山の前途有望なるを認め開業し未開の龍山藥業界をして開發せられたるは氏の若眼の非凡なるを證して餘りあり四十年濱口源太郎氏は京龍藥品卸賣合資會社を辭し京龍に獨立開業同年川瀬一五郎氏は漢城病院を辭し龍山に開業せられ尙時勢の向ふは藥劑師を雇聘するの必要ありて現に京龍に二ヶ所の藥種商は藥劑師を聘し藥局開設關の需めに應せられ店務監督せられて盛んに營業せり以て如何に藥劑師の開業を渴望せるから設すを得ん藥種商新井虎太郎氏は昨年支店を京龍に設け賣藥化粧品卸賣に従事し近藤荒木井口三氏の如きも老舗として知られ古城總之助氏は藥劑師を聘し盛んに營業しつゝあり山岸祐太郎氏は化學藥新藥等を持し病院等の用途をなし居るも尙多く進歩せる韓國の醫藥業界の望に應せんとしてつゝあり其他の藥種商は小規模のものにて報するの價値なけん概して販路廣く前途有望なり母國の藥業家よ幸に機を得て渡韓觀察せられんば其得る所亦大ならんか



治

忍耐力は機度きんどの宏重くわうちゆうにして活氣あるを意味す

言へば時の識者が卓見により國是をして時代に協當せしめたるものにして之れが動機は活動の原動力たる要素忍耐力の現實に外ならざるなり

又彼の十九帝國々會に建議以來藥劑界に時ならぬ喧囂を極めし改正藥律問題も遂には天下の輿論を惹起し昨冬開會の二十三議會には政府躬から之れが提議に出づ是の間の経路に就ては一朝一夕に發露を得ざる幾多の難局難關ありしも兎に角不滿足ながらも今日該案の實踐を視るに至りしは政府進んで建議の舉に出たるとは首へ國民も俱に其の須要を自覺認要せしに本づくなり然れど他人の事は吾れ不知の語あるが若く同胞の意思をして愛に込

の若きなれども願て思搢ねば同人等が力の足ざるに出ず然れば之れを矯正爲すも

之れ本論の骨子にして淺見荏才の碧冷が
 筆鋒を揮ひ敢て諸君の反省を促す謂以實
 に愛に存するなり夫れ前述の若く事の成
 否は當事者たるものゝ忍耐力の有無奈何

に因て決す併れども是の忍耐力なるもの
 今千人が千人に探て何人も至難なること
 は言わずもがな然れど之れを凌ぎ將た之
 れに克ざれば人たるの資格莫き者にして
 人生の本義に反せるなり故に己人にまれ
 團體にまれ或る事業を纂立し之れを成完
 せしめんと思惟するには开が原動力たる
 格据經營の精神則ち忍耐力を必要とす
 斯の忍耐力を奈何にして作生なすやは既
 に至賁したる若く其の源は活氣充てる胸
 懷の噴量より誘づるものと主張するなり

にして之れより又忍耐力を生む之れ哲學
の定則ならずや

運源果して何處より来る哉青史に曰く
陽春召我極景大塊假我以文章」と斯の如
く人生をして爽快に幽美の雅園に在らし
むる懐を想起せしむ心果を探れば畢竟す

るに自れの胸襟を開放して宏大深雅なる
宇宙の光景に對して之れが眞意を咀嚼し
之を味ひ得る心あるに因るものなり
豈し斯る心なくんば奈何に清新美妙なる
大地の景衆に圍まれ起居閑遊なすと雖ど
も毫も愉快なる生活爲すを不能然れば
人は窮から己れの不運薄倖を託ち境遇を
嗟嘆し援て夫の無情を恨み不愉快なる月
日を徒暮なすは之れ皆自れの意思の不健
全なるに歸着するものなり其れ俗言に謂
はゆる自棄自得とは愛の眞意を凋破せる

命子日本藥事協會の起つや内訌は拂捨
之れと等しき運命に遇い憫れ今は其影
あまたの志士は長良の川原とて

ある如く愚蒙の徒の簪せしむらゆる反旗に依て旗幟鮮明なる策案も凄蕭長恨を天に漲らして崩落し幾十の筆者は悲痛哀惜の晴涙を岑々互の袖を濡し天涯萬里を望

せられし原因は、
之れ等斯界の燈明臺をして慘膽にも破壊
せられし原因は、
常識なき愚陋の徒即ち定見識量なき悔度
の小さき者の輩が遺憾にも我が界に多き
謂以なりと手は斷言するも敢て過言にあ
らざるを自信するなり
何たる没曉漢の多きや噫々斯界の人心を
一洗し今に之れが矯正に着手せずんば常
に諸種社界の嘲笑をうけ授て斯界の前途
に憂心せざる事多々出來するは火を見る

本社 告
本紙之延刊 本月三日發行す

第二號發刊は四月三日を以て
す本月廿五日迄原稿送達を乞
ふ

る情に出ず
斯は快活乎順才乎將た機敏乎言ふ勿れ之
れは氣宇の性情が宏碩なるより自然天然
に流露し結果なればなり故に成功と云ひ
活動と言ひ忍耐と言ふも兼て來れば操度
の宏量より自然に現るゝ果實なるを以て
我藥劑草澤の人士も願くば此の觀念を持
し實踐鞫窮斯界の發展に盡力せらるるは
當然の義理なりと吾人は論斷する者なり

京
城
藥
報
社

小説

義姉さん

星 演

「永い／＼恰も僕い森の奥の方で、魔神が友を呼ぶ如き不快な消息が義姉さんの口から洩れた。僕は腹から胃の膜を破つて感るものを地の底に墜して、其體の三さが連れを招くかのよふに自分の鼓膜を打つ。音は鐵線を通りて神經中樞に聚まる。鼓膜の振動に振れた五体を横に倒して、何ものをも認め得なかつた自分の精神は今の刹那に固て死の境界から半意識の狀態に陥る。」

第二の噓き

幻の界が意識を明瞭ならしめて死の街は何時の間にか消されて終つた。自分分は漸く枕を放れる夜陰に濕つた六疊の此の室には有るか無しの洋燈に因て餘命を保たれて居る。薄き光りは二尺角程の墨目を照して冷かである。自分は噓きの徑路を辿つて義姉さんの病床に視線を落した。大病唐草の夜着が黄に縁どられ、其襟から脱した義姉さんの襟が、細き洋燈の名残りを浴びて居る。窪んだ船の影がどこまでも／＼落さんと努める無造作に束ねた黒髪が、過ぎし春の夜の枕に睡れ囁いた物語を忘れて、其幾筋かい亂れ纏れて——脂氣を失ふて居つた。

「ア、寒れなすつた事」

寒れと云へば思ひに落ちる、れ氣の毒と言はば世が呪い度なる、熱すればこそ同情の詞も出づるなれ、戀を考はれた自分の胸は中々に涙の出づべきもので無い女を呪い世を呪いて、ならば意趣の炎を大空に漲きらし、万人悉く焼く爛れた時

に、自分は冷かな笑いが起るのである。萬籟聞たる夜の氣を破つて、隣家の時計は三ツ鳴つた。遠き汽車の音だらう、鐵橋を渡る轟々の響きが地球の表皮を履するかのよふに聞える。——地獄の釜の沸く聲に引き立てられて、阿吽の呼吸の悶々苦しむ亡者の聲、は今のあの車輪が實現せるのであるまいか貴族も富者も乃至無理な慾に勝利を博した万人は、夢に其輪を其間を車輪に移したのであるまいか——

自分は冷かな笑いを催した。

「僕ははしい——」
来る聲の震を退けて、薄き襦袢の上に端座した魔の叫び——亡者が喚く轟々の音は益々近づき、僕ははしいと刹那の感に消れて、攻め寄る異様の聲が、靜かに耳を貫く時は、總ての感念を捨て、傾聴する三寸の神經線は悉く自分の精神を天空に飛ばして、此の釜を觀よと中樞の私語く——此瞬間——

兄は學士である、角幅を着て大きな卒業證を抱いて赤門を出た人である。その時に義姉さんはマーガレットに結び、兄と寫眞を撮つた。此室の小やかな床間の隅に、應の襦袢を恨みもせずニッケルの寫眞鉢にゐるの、其時の面影である。

陽炎の立ち登る空は麗かである近頃、春を幾千年の過去に追ふて、義姉さんは吾家に嫁した。然し春の美は外観の装いである麗かな義姉さんの顔には愁ひの雲の絶えず往きつ戻りつ徘徊してゐる、それに増した自分の情緒、過ぎにし罪に想はれ誦められる、バットと岩に碎けて白雪の沫と消ゆる胸の亂れは、悶々因を遺して、未來の果まで盡きぬ妬みである、蜜を含む花の瓣は美しく咲く、咲いた花片の蜂の寄るのは餌を漁る爲めである、蜂は明らかな野の空を躍りて落つて蜜の花と戀しむ、そして平和なる春を送つて快く寐る、いつぞやである兄は義姉さんに斯う問ふた。

「婦人の初戀は結婚前に他の人に奪はれて居る——」

義姉さんの胸は戦慄と恐怖の波を打たせて震を動かす、義姉の深き愛は己に潰されて居つたのか——自分は閉ぢた眼を開けて室を見廻した、森閑な夜氣を充たして永久に此の狀態を傳へるよふである、汽車の響きは既に沈黙の街を急ぐ點化せしめて、石像の如き義姉さんの口から微かな潮が洩れて居る、自分は再び眼を開けた。

閉ぢた瞬間に再び兄の目を思い浮べた義姉さんの肉體は既に空虚と化されてある——兄は偏んで居る。果して——

「戀に泣く男の子——」自分は何となく冷かな笑いを催した。

「義姉さんは泣いた、自分も泣いた眼に照る露一滴は所を隔てて種を落したのである、しかし義姉は知らねばこそ、兄の妻である——」

第三の噓き

第三の噓きが解した夜の幕を破つて自分の耳に響く、總ての想像を神經から放した自分の身体は無意識の裡に義姉さんの枕邊に座つた。取り亂した裏衣の袂から冷たい風を捲き入る、義姉さんの眼は細く開いて涙が頬を傳つて居つた。

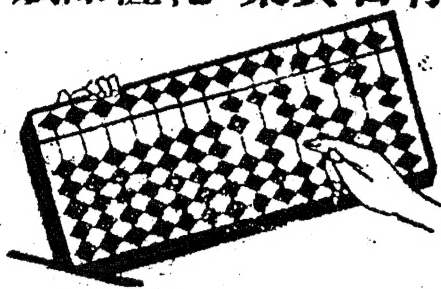
「誰さんおどして下さい——」

自分は何も答へなかつた。

「貴郎が——貴郎が學校を中途でた廣めに成つたも克く知つて居ります、世の——世の中に私は——」

祝京城藥報發刊

有名賣藥 化粧品類



(一六一話電)目丁二町本川仁

店本房藥井新

目丁三町本城京

店支藥井新

大方同業各位益々御隆盛之段奉賀候弊店從來藥種賣藥化粧品類賣ニハ専ラ誠實ヲ旨トシ萬般取扱居候へ共向一層奮勵便宜相計リ可申向ハ新規ハ開業並ニ行商ハ御方ニハ充分ハ便利ニ諸品取揃へ差上可申候間續々御用命之程奉願上候

却小賣大勉強

會長 谷岡環

●京城唯一の外勤看護婦會
●會員十八名何時にても御依頼に應ず
漢城外勤看護婦會
京城南山町二丁目

●營業品種目

●內外醫藥品	●賣藥用原料	●品質撰擇
●細帶材料品	●色染用原料	
●工業化學用品	●洋酒及滋養品	
●工業用原料	●確實勉強	

丸木利兵衛
電話 東一六五四番
大阪市道修町三丁目

切つた言語の端は胸の奥に潜んで、悶へるのを耐えす。
「私の病氣は逆も癒りますまい。」
「莫迦な、那だ弱氣を起すものぢやありません。」
自分は義姉さんの言葉を打ち消した。
「『エ、言ひ下さい、私は……私は……』」
様に言ひ下さい、私は……私は……
さん私は良人に捨てられ、愛の無い肉体は死の五体です、ア、苦しい、捨てられた身を誰かに拾われて……
中に實の果物を送るは淫らである、赤門を出た兄は美しき果物の實の無きを憤つて姿を消した、これは妓女である云ふ事を風が便りした、しかし義姉さんは依然兄の妻である、實の無い果物でも一指染むる無き身である。
義姉さんはガバと夜着を脱ぎ、細き帯の括りも解けて雪に紛ふ胸には小さき乳房が裏衣の襟から半ば露われて居る、夜着は燃ゆる真紅の端を覗かせて……
悲しき美しき哀なる美……
無意識の動きを掻いたる美……さんは顔ふに力を籠めて……
「隆さん……私は、私は貴郎の看護を心から願ふ思ふて居ります、貴郎が胸に満ちる美しい望みを什麼ぞ叶へ……」
美しき人に得ならぬ香を捧げて、嬌娥の宮に詣る華の顔は神祕の境を超えて、天國に遊ぶのである、過去の春を追想してわれ欲を満たすは俗人の行いである、自分には思ふた。
悶々苦しみの雲が細く捲けて義姉さんの顔は次第に麗然となる。
「ア、……鋭く耳を打つ。」
「義姉さんッ、突然な……」
「狼狽は延びて傍らの藥瓶を握つた。」
「隆さんッ……水……水を……」
「蛇見一片の烟りと化す瞬間の慰安は、無味の水一碗が冥府の首途をなす、自分

はコップを義姉さんの口に俯めた眠むるが如き顔は女神の再来である、恍惚として義姉さんは口を開けなかつた。
自分は意識の成を脱して水を含んだ、そして義姉さん口へ……利那、森と握つた手は乳房に觸れた、心臓は新しい血が流れてゐる。
死の像は華の麗かに飯つた。
ア、悲しき愛、哀なる愛……
(完)
韓國藥界の人(上)
声の家主人
○見島藥學士 統監府技師大韓醫院藥局長にして韓國藥劑師會々頭たるの君は實に韓國藥界の重鎮である學術に忠にして而かも藥劑師會實拾有餘の健兒を卒ひて陣頭に立つ宜なるかな近來藥劑師の振へるは又同君あるが故なり
●中尾藥劑正 武官派藥學者にして藥劑師會副會頭たるの君は人に接するに平民的態度を以てし言路少なくして其要を得る實に人をして思はず尊敬の意を拂はしむる君も亦見島藥學士と相並んで藥界の重鎮である
●渡邊藥劑師 漢城病院藥局長の君は藥界第一流の人材である人あり君を許して不得要領の人となす然れども其不得要領の中に要領を轉止せる如くにして着々事をなす君も亦藥界の驍將である
●田中藥劑師 統監府にあつて日々の業務は本職と異なるも藥劑師會に忠實なる君を僅ひて他に求むべからざるの士である其の酒々落々として壯言を吐く其の振らば振りは實に正々堂々と恰かも見島藥學士を參謀とすれば君は戰線の將である左右角君は藥界の勇將である
●古賀藥劑師 漢城病院にあるの君は常に沈思黙考しつゝ動かさる如くにして絶へず活動しつゝあり其學を大學に受け日々其研究に餘念なく着實にして而かも師

氣あり君も亦藥界一方の旗頭である
●武川藥劑師 統監府技師として今名ある君は謙遜卒直實に紳士の好典型である職にあつては常に技師見島藥學士を助けて孜孜として研究せられ家にあつては讀書に耽る君は實に藥界の學者である
●河又藥劑師 京城に於ける藥劑師の古參として藥局開設の卒先者たるの君は又藥界の策士である其業に熱心なる今日の藥劑士中の成功者云ふべきなりそれが爲か近頃京京は云はく近來の君は只蓄財にのみ急にして他心なしと否々前途に或物を得んとしつゝある君は財を蓄へ然る後徐ろに事や遂げんとする下心にあらざるか暫らく記して今後の君が行動を見ん
●韓國藥劑師會 二月九日京城小學校にて例會を開く來會者十三名見島會頭の開會の辭次に當日の問題たる規則改正につき遂次討論午後四時終結をつけ次に三月例會の問題として「韓國に於ける水の衛生的試験判決の標準」なる討論題を定めて散會す
●鶴林藥學會 漢城病院院長能勢博士を會長とせる同會は今後益々發展せんとし又學術の研究にも留意して隔月一回の豫定にて雜誌を刊行する由
●小西富衛兵氏 大韓藥業藥劑師の同氏は去月商務を帯び渡韓東京商用の傍觀察せられたり
●新井藥房支店 昨午京城に支店設置以來支那人藤田傳三郎氏を但て業務を擔任せしめつゝしが同氏勤敏の功空しからずして本町三丁目に移轉店務を擴張し發展の域に達しつゝあり
●石田機織店 京仁間にて機織機械業者として唯一の同店は如何なる難修履物もに容易に修理に應ずる爲今般精巧なる技師を招聘せられたり

祝 京城藥報發刊

●療診科齒●

京城 仁川分院 院分 南山町三丁目巴城館ノ上四軒目

仁川分院 院分 仁川病院前ノ角

仁川分院主住 藤井庄次郎

前東京共立齒科醫學校講師

祝 京城藥報發刊

漢城病院ヲ辭シテ開業

飯塚徹

前東京醫科大學勤務統監府屬托

祝 京城藥報發刊

東京池之端仲町貳拾七號所有地

寶丹本舖 守田治兵衛謹告

日本體育會より御信書の附言

御專賣の寶丹は殺菌力強く且つ細胞の活動を喚起するの効あるを以て肺病の豫防にも適劑なることを確め候間

故に寶丹は軍隊・學校・集會・宴席・寄席等は勿論家庭衛生の常備藥として欠べからざる良劑なり

祝 京城藥報發刊

改良賣藥の魁

今回京城理事廳の許可を得専ら張良日本藥局方藥品を使用し調劑したる韓國唯一の改良賣藥を發賣す何卒御試用之程奉願候也

許官治 許官健 許官健 許官治

煙 虫 胃 瘡 散 散 散

藥房 堂 京城南山町三丁目

岡實太郎謹告

定量分析問題 陳竹林

問題 全國石の数が三万四千で、ヤクザ石の数が四千なり此兩者の全数を各別に乳鉢に採りて粉砕し極密平等の質となし、後之れを元数に分割すれば各一石の學力品位欲望社會の信用の分量如何但し答案は表示するを要す

學力專門的	品位	總望	社會之信用
石	ヤクザ石		
一、九八五	一、四八五	一、〇〇〇	一、〇〇〇
〇、八八五	〇、七八五	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

ストーブ

ストーブと一概に云はれて終へば其れ迄だがストーブはストーブとして又樂しきものである、吾輩は白雲粉として降る頃、倉庫から出され定められた席に置かれて前後三ヶ月休む暇なく吾輩の體中に安値の石炭をほり込んで人間を云ふ動物が吾輩の間接の熱によつて自分等の冷へ切つた身體を温めてさう人間自身が温かくなつた如く自惚れて充分温まつた後は何等顧みる事なくしてさつさと出て行かつしやる得手勝手なもの人間である吾輩が三ヶ月の出稼中には人間共は始終吾輩の傍に來つてくだらぬことを吐かず背の高ひ色黒の奴は朝から我れ未來の宮崎縣知事などな何處をぞう押したら彼様な聲が出るのか一日中吹くは、とこぞん迄吹ひて終つて後胸中何等の不安なしなんて蘇村流を其まゝ受賣して得々仕して居る足氣加減さ吾輩思はず笑ひかけるを細そりし奴は、吾輩の口に

時事評論

▲時勢の變動は則ち人心の變遷を意味す夫れ山野枯樹し深流濁る、秋來れば心氣消沈となり既往の事跡を顧ひ前衛の事を煩悩なす傾向を生じ物事に何となく事々味を帯ふ之に反して紅霞岸を擁し芳花紛糝の春來れば意氣軒昂となり凡ての物に活氣を帯ふ此間の消息信に妙趣を極むるにあらざるや
▲然れば物事を籌立し劃策すは秋に若くはなく之を實踐し將た貫徹に努むるは春に若くはなし
(七面へ續く)

祝京城藥報發刊

つるの油
發賣元

營業品目
藥種 工業
化粧品 有名賣藥
此外各種卸小賣とも
勉強販賣仕候
荒木壽生堂藥房

藥品賣發醫藥器械衛生材料

統監府御用調劑所
贊化堂古城藥局
警視廳指定藥局

品質精良廉價販賣調劑應需

學校病院官衙御用達
物理化學器械標本
醫藥器械
教育圖書並器具類
特約販賣
韓國京城南山町二丁目
北屋花園内
東京各機械製造所特約器械
販賣所

一般衛生試驗之依頼
ニ應ズ
公立漢城病院試驗部
藥劑師 渡邊悦之助
藥劑師 古賀惣五郎
藥劑師 土井兼次郎

▲此經問の真意を咀嚼し之れを利用するの才利ある者を識者と呼び又幸運兒と呼稱す并は一旦立憲せし事成功せざるなきを言ふ所以なればなり

▲今茲に彩霞山河を仰み碧水滿々の三月藥界を開拓の秘針京城藥報は韓京より發刊の旅機を機雲高く翻がへし出す思ふに之れ識者の爲せし業舉に外ならず即ち予が謂ふ藤の時候の機動と人心の變遷の關係を味ひ識る人ならんばあらず呼々壯なる哉此舉前途多忙なる哉同紙の運命

▲殊に京城は韓八道の首府にして我國より南北滿洲扱ては北極シベリアに到る中間に樞要の地に當る之等の地や未開にして藥業の普及邦人の手に俟つ事多し

▲是の好時機を利し京城藥報を生む將來の成功期して待つべきなり

▲處異なれば目に映する物事は又異なる東京模範藥局の通牒より官封廢止の輿論を引起す卒ひては衛生試驗所設立の必要を論ずるに至る實に近來の大問題の如し

▲韓國は母國と風情を異にす又藥業の狀態も大に遅れたる如き氣味なきにしもあらず此時に衛生試驗所設立の必要を論ずる者多し同一の者も其境遇によつて所論異にす

▲日本在住の藥業者は個人封鎖を信憑し在韓藥業者は團體(官封)の如き封鎖を獎勵す面白きものは境遇の變遷なり

商 況 京 城

昨年十月頃より本年二月迄の商況は實に不景氣之有機に候不景氣云ふより具體業せりと申す方適當に有之候、隨て藥業も一向面白き事無之唯仕入に忙しく儲き居るのみに存候然し本月頃よりは追々好季節に相向ひ賣藥も随分捌ける事と相成るべく候

賣藥にて最も賣行きの好きものは梅毒藥次に胃病藥清涼藥等に有之候梅毒藥にては毒滅ドクトル九最も賣行よく胃病藥にては胃散胃活ビツトノ散の順を以て清涼劑は日韓人を通じて仁丹寶丹最も好み清心丹は大抵日人に好評を得清快丸は恰も忘れられた感有之候

藥報にては病院を得意と致し候故現時にては餘りに好望に無之而し之よりは當地は洋藥の舞臺と相成るに察し候丁幾類は最も賣れ口多く候當地は酒精も安價故丁幾類及軟膏之製劑は實に有望の事と業存に候

日韓英藥名辭典

今日韓協約成立し彼我の交通日に月に便にして邦人の韓國に赴くもの益々愈々増加し事業に着手せり八道の山河到處遺利多し然るに邦人の手によりて開發せられたるは僅々なるは何故ぞやこれ畢竟我國の上下眞誠に韓國其物の本體と韓民の人情風俗性質を根本的に解し得ざるの致す所にして其原因は韓語に通ぜざるに歸せざるべからず茲に於てか韓語研究の必要の起る所以なり

▲韓國は我國の好貿易市場にして殊更に我藥業とは關係深く小西行長が文祿の役に従ひ其動作の敏活なりしは夙に藥品貿易上頗る國情に通じたるを以てなりと宜なるかな我藥業は斯の如き關係を有するのみならず今後藥品貿易は我國の掌中に收めざるべからざるを以て藥業家は須らく韓語の研究の必要を感ずる所以なり藥業家諸士奮勵せられ研鑽せられ依て余は先年藥學研究の爲め我國に留學せられたる韓人(同窓)の多大なる幫助を得て茲に藥業家の喝聲せられる藥名辭典を毎號掲載せんとす幸に一覽の榮を給らば何の幸か之に若かん(疏水)

日韓英藥名辭典			
京城民團立漢城病院			
古賀惣五郎著			
日	韓	英	
安知	인티페드린	Antifebrine	
芳香	이름잇리헨네저	Aromatic Vinegar	
粗製	헨네저부럼우드	Vinegar from Wood	
海蘼	헨네저어부스킬	Vinegar of Squill	
亞砒	아센노쓰에씨드	Arsenois acid	
石炭	씨카볼릭에씨드	Carbolic acid	

溫 突 放 言

▲母國は第三版藥局方も實施されるにつれて前局方の品は精製しなほすか清轉へ輸出されるに異ひなからふ危険千萬だ

▲粗製藥品濫賣し其上に又候彼様なものか舞込んだならば益々藥業家の面目を失する

▲さぞこたさ哉の次に繩より繩の次に盜賊と云ふ工合に今から充分豫防策を講してをかねばならぬ

▲或目的を達するに於ては適度の快樂を捨つべしとは或人の言なり定めでかゝ人の頭腦は福地か利か事であらふ阿々

▲さて殿の殿りとして聊か本紙の精神も述べ置かふ實に本紙は藥業界の木鐸を以て自任して居つて或種の新聞の如く自己の利害から割出して批評する様な淺薄な事は仕ない不撓不屈只々斯界の發達を圖るに在るのみ乞ふ今後の本紙に之を見られ

●營業品目

和洋名藥賣種
醫藥器械藥種
消具染材料
繪具線香料
香具粧品
高養食料
滋養小賣共大勉業

大日本東京宮殿下御買上の光榮を賜
大韓國京城博覽會にて有効章を受く

強壯人參飴 一定小金五拾錢 價大金壹圓

本品ハ韓國特有の入參の有效とを以て朝鮮土產として最も優美高尚なり

有名藥卸小賣
內外藥品卸小賣
繡帶材料石炭及化粧品類大販賣

貴生堂藥房
近藤正廉
貴生堂支店
崎山正吉

京城本町四丁目
電話三三八番
京城南大門通三好町角

韓國京城本町二丁目
井口順生堂大藥房
電話九六九號

般般般般般般般般

祝 京 城 藥 報 發 刊

東京帝國大學醫科大學
陸軍衛生材料廠
陸軍衛成病院
日本赤十字社病院

統監府
大韓城監府
其他諸官衙及各病院

御 用

◎日月星印サンテミリオンの佛國製純良赤葡萄酒

ST EMILION



此日月星印サンテミリオンの葡萄酒は佛國ボルドー府の最も著名なるフオートルフレ
ール會社の醸造にかゝり特殊の爽快なる芳香と佳味を有し色澤亦美なり品質善良
にして滋養分に富めるは實に各種葡萄酒中に冠なり弊店に於て十數年以前より日
本直輸入一手販賣をなせしより前記各官衙の御用品と定められ其他多數貴顯紳士
の高評賛々たる以て品質の善良なることを知るを得べく敢て販々の辨を要せざる所
なり

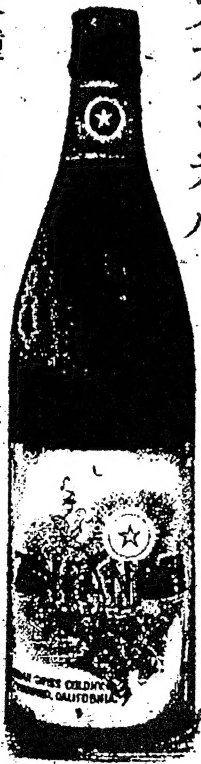
TOKAYI

◎トカヤ酒



抑も此藥用「トカヤ」酒は實に世界酒類中
最も貴きものに一種の香氣と濃厚な
る美味を有し嗜好品として酒類の上
乘なるものなり藥用としては疾病の快復
期に於ける働きは精神の興奮に加ふるに
含水炭素并に蛋白質の攝取に由て奏する
能力を兼ね神身共に健全に赴くを以て大
に豫後を安全にす且つ味甘く緩和なるを
以て小兒婦人咸に平素酒に馴れざる人
最も適せり

◎日月星印ジンファンデル



其他洋酒洋食料品各種

直輸入發賣元
洋酒問屋

洋酒洋食料品
問屋

虎印滋養芳香甘味葡萄酒讓造發賣元

東京市京橋區南傳馬町三丁目一番地

大西文三郎

電話本局一千七百三十六番

韓國京城大和町一丁目一番地

大西組

電話九三五番

祝 京 城 藥 報 發 刊

漢城病院御用
理化學器械
醫療器械
解剖器械
電氣器械
綑帶材料
調劑用品
諸金銀
金銀ニツケル鍍金
諸器械修繕

目丁三町治明城京

事龜臺

所造製家自郎次直田石

和洋藥種 簾價販賣

並ニ調劑ノ御依頼ニ應

ズ

京城本町五丁目

は河又藥局

(電話七六一番)